

ふしみさらだボール子育て情報



「発達過程と課題」

令和5年5月24日号

板橋富士見幼稚園



「いやいや」期はなぜおこるの

言葉は、感情と一体です。人と人を繋ぐために人間が創り出した文化的記号と言われ、人から学び獲得していくものです。2歳までの言語感覚といわれるイメージ言語（心象・表象・想像力）がその基礎となります。

生まれてから2歳ごろまでは親への依存度が高く、常に親を求めて生活します。そして親や周りの大人との言葉・単語（一語文・二語文・三語文など）のやり取りによって語彙が急速に増加していきます。この急速な言葉の獲得には感情が必要不可欠で、この感情が伴わない会話や対話は、言葉の獲得へ結びつくことが難しいとされています。

親に依存しながら言葉を十分に獲得し、言葉で伝え合えるようになると、急速に自我が芽生えはじめ、自分の思いを押し通そうと自己発揮してくる時期に入ります。したいことや、してほしいことを具体的に想像できるようになってくるため、自分の思いと少しでも違うと、「いやいや」と首を振る行動や表情等で、拒否することが多くなってきます。

あんなに素直に育ってきたのに、なぜ急にうちの子は拒否するのかしらと思われる親御さんも多いのではないのでしょうか。



しかしこの「いやいや」は、我が子に知恵が付き、順調に知的な発達がなされている証拠なのです。しばらくは、子どもの思いに沿いながら、楽しさやうれしさ、喜びにかえていってあげてほしいと思います。次第に自己肯定感が培われていきます。幼児期の自己肯定感は、子どもの自立を早めてくれるビタミンです。あと少しお付き合いください。

【写真：本日年長さんが野菜の苗植えをしました。

優しく苗を持って土をかぶせ最後にお水をあげました。

夏の実りへ、今から子どもたちの期待が膨らみます。】

